

## 中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 超小型音響センサを用いた生物学的適応型陽子線治療
2. 研究代表者： 松浦 妙子（北海道大学 大学院工学研究院 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、がんの陽子線治療における課題を解決するため、超小型音響センサにより陽子線から発生する「音」を聞くことで陽子線が体内で停止する位置を正確に把握して正常組織を守ること、陽子線が生体に与えるダメージを正確に評価することを目指す。フェーズ1では光学マイクロフォンを用いた基盤技術の開発を着実に進め、堅実に成果を達成した。フェーズ2では具体的な計画が立てられており、今後、人体を模した系などでの実験を進めることで、臨床への展開が期待できる。研究領域をより広げ、生体系での計測および評価の確立に繋がる成果が生まれる可能性に期待する。

以上